（実際は終局としないでそのままダラダラと続けている卓もありますが、例会は親睦を旨とした
楽しいマージャンということなので厳格適用はしていません）

通常、親は親の有利さを確保すために、危険を冒してもテンパイにもっていきます。そこに勝負のあやも生まれてきます。

（流れないとなると、親は無理な勝負をせずに、そのまま終わることを願う打ち方をします）
（一方、子にしても、大きくない手では無理な勝負はせずに、次局にかける打ち方をします）

ことほどさように親であるかどうかは重要なことなのです。
それを最初から親は嫌いなどというマイナス思考では、勝負はそこであったも同然です。
親の有利さを認識し、親の有利さを生かした打ち方をしましょう。